

# M-Line Swift Hi機 ジャーマンマエストロ 研究が澄まされた描写力!

文 脇森 宏

ドイツに居を置き、設計から製造までもを一貫してそのドイツにある自社工場で行う、ジャーマンマエストロ。ネーミングを裏切らない徹底した音への拘りの表れと言えるが、必ずしもそういった姿勢が音質に直結しないのがオーディオの難しいところ。本誌初試聴となった本機は、しかし、揺るぎない実力を試聴室に響き渡らせた。詳細をお伝えしたい。

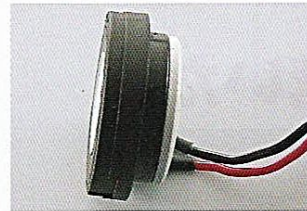
GERMAN MAESTRO (ジャーマンマエストロ)は本邦初出、ドイツの新しいカーオーディオブランドである。マエストロとは、いうまでもなく巨匠、名指揮者といった意味。カーオーディオにおいて、マエストロの名に相応しい卓越した性能を持つコンポーネントを供給しようという強い意気込みが伝わってくるブランド名といえるだろう。製品は主力のスピーカーのほか、パワーアンプを展開。とりわけスピーカーは、高級機からポピュラーモデルまで多彩なシリーズを設定し、幅広いユーザーの要求に応える態勢を整えている。同ブランドの設立の経緯も興味深い。ブランドを立ち上げたのは、かつてMBクォートがドイツのオプティックハイムでスピーカーの生産を行っていた頃の社員有志であり、その工場を引き継ぐ格好で、スピーカーを中心とするジャーマンマエストロの製品の設計や製造が行われているという。MBクォートは御存じのとおり、信頼を置くに値するブランド。主力のスピーカーそ

してパワーアンプともに、派手さはないものの音と音楽に対する真摯な取り組み姿勢が伝わってくる製品ばかりで、価格のいかに関わらず試聴して失望したという体験は一度もない。そのMBクォートの元技術陣が手掛けたジャーマンマエストロの製品には、当然のことながら大きな期待が寄せられる。

## 独自技術も多く盛り込まれたシステム構成

ジャーマンマエストロのスピーカーは、最高峰のMラインを筆頭に、上級のSTATUS、アッパーミドルクラスのEPIC、中級のCONCEPT、それにエントリークラスのALPHA-Rという充実したシリーズを展開。各々のユニットの造りや佇まいなど、MBクォートに近似している部分が少ないから見られるのも興味深いところだ。

今回、試聴したのは最上級Mラインの3ウェイシステムであるMS 654010。16cmコーン型ミッドレンジをベースに10cmコーン型ミッド



トゥイーター振動板の形状やネットワークで使われる素子は、水平方向の軸外でも情報の損失が少ない特性を持つという独自技術“UltraSphere”に基づくシミュレーションにより決定されている。振動板素材は、チタンをベースにナノセラミックをコーティングしている。

ドレンジ、それに40mmという大口逆ドーム振動板トゥイーターをアッセンブル、高品位素子を積極的に投入した専用ネットワークで構成されている。アルミダイキャスト製のフレームを持つウーファーとミッドレンジは、ともにネオジウム磁石に浅めのコーンという組合せ。振動板表面に超微粒のナノセラミックをコーティングすることで、いざだんと剛性を向上させている。トゥイーター振動板は、独自のUltraSphere技術に基づくコンピューターシミュレーションによって最適形状を決定、優れた指向特性を獲得した逆ドーム形状。チタンドームをベースに、こちらもナノセラミックコーティングを施し、剛性向上と音色の統一を図っている。クロスオーバー周波数は209Hzと2.35kHzで、スロープ特性はすべて-12dB/oct.とされており、再生周波数特性との兼ね合いもあるだろうが、これはとりもなおさず各ユニットの位相特性が安定していることの証といえるだろう。



## ジャーマンマエストロ MS 654010 ¥420,000 (税込)

●形式：セパレート型3ウェイスピーカーシステム●使用ユニット：ウーファー・16cmコーン型、ミッドレンジ・10cmコーン型、トゥイーター・4cm逆ドーム●再生周波数帯域：28Hz～32kHz●定格入力：90W●最大入力：295W●出力音圧レベル：86dB●クロスオーバー周波数：209Hz (-12dB/oct.)、2.35kHz (-12dB/oct.)●インピーダンス：4Ω

●問合せ先：オーディオジャパン TEL.0299-90-5506



トゥイーターと近似した白い振動板を持つウーファーとミッドレンジ。トゥイーター同様にナノセラミックがコーティングされる。超微粒の成分を吹き付けることでガラスに似た表面構造を作ることができ、振動板の補強と音響補正が可能という。

## 明瞭度高く バランス感良好の再現力

試聴時にはカロツェリアXのヘッド(RS-D7XIII+RS-P99X)とオーディソンHV Ventiを揃え、万全の態勢で挑むとともに、アルパインの高品質デジタルアンプ PDX-F4も用意。アンプによる音の違いもチェックした。

このジャーマンマエストロの3ウェイは、グレード感高く端正かつナチュラルなサウンド。そして再生帯域は広く、聴感上のエネルギー分布も均一。3ウェイは中高域の密度感の高さが魅力とはよくいわれることだが、本機はそのような肩肘の張った音は微塵も聴かせることなく、呆気ないほど自然に、広帯域を俊敏かつフラットなレ

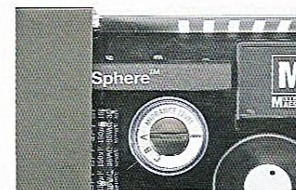
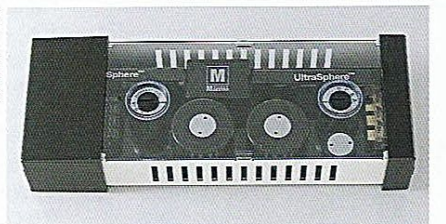


一体感あるバスケットは軽量金属を射出成形したもので、強度があるとともにCTCという技術により熱コントロールもされる。このバスケットはミッドレンジも共通で、どちらも磁気回路はネオジウム磁石を採用、コンバットに仕上がる。

スポンズで再生してみせる。細部まで光を当てたような明瞭な表現を得意とするが、全体にキャラクターや色づけは少なく、オールラウンドプレーヤーの資質を備えたスピーカーといえるだろう。

アンプをPDX-F4に換えても、バランスの取れたワイドレンジサウンドは相変わらず。アンプの価格を考慮すると充分にレベルの高い音だが、このスピーカーの本領を発揮させるにはやはり相応の本格派のアンプが必要だろう。そうして相性の良いアンプと組み合わせれば、この3ウェイはその特質を最大限に生かした、きわめつけのスムーズ&フラットサウンドを聴かせてくれるに違いない。本機に限らず、一連のジャーマンマエストロスピーカーは今後、要注目の存在になることだろう。

スピーカーユニットと比較してその長さがわかる。大型の専用クロスオーバー。左右幅で25cm近くもある。内部は、UltraSphere技術に基づき搭載されたデバイスやケースに覆われたコイルが整然と並び、ハイワイヤリング/バイアンプに対応。



ミッドレンジのレベル調整はA/B/Cの3段階(0/-3/-5dB)。1kHzを中心に高域側/中域側が均等に下がる。



トゥイーターのレベル調整はA/B/C/Dの4段階(+1/0/-2/-4dB)。2kHzを軸にして高域側が変化する。